



特別寄稿 新型コロナウイルス感染症の流行

山口大学大学院創成科学研究科 奥田昌之

中国武漢での流行を発端に世界中に広がった新感染症は、現代人の生活の実態を明らかにした。1910年代のスペイン風邪のときよりも断然速く情報が世界中を駆け回るほど情報機器を使い、人々は国境を越えて移動して活動し、経済活動の停滞は石油燃料の消費量を減らし、一時的であるとはいえ、驚くほど新興国の大気環境が改善するほど人類は環境に影響を与えていた。新型コロナウイルス COVID-19 感染症は、1類感染症であるエボラ出血熱、マールブルグ病、ペストほどの感染者の死亡率は高くなく、同じコロナウイルスである SARS、MERS ウイルスほどの死亡率でもなさそうである。それでも著名人が亡くなった現実を見れば、不安が掻き立てられる。一番の問題は、武漢、ヨーロッパ、ニューヨークの医療機関の混乱ぶりは他人事ではなく、国内医療機関内で集団発生も起きており、日常利用している医療提供体制の維持が困難になることである。我が国では当たり前すぎて気づかないかもしれないが、医療へのアクセスの良さが社会保障として大事な部分である。

3つの密（密閉、密集、密着）を避けることが勧めら



2019年度ESD研修会まとめと反省会

3月21日に予定していたESD研修会のまとめと反省会は新型コロナウイルス対策のため残念ながら中止になりました。しかし共創のまちづくりの助成が一部絡んでいたこともあり、事務局関係者と一部関心の深い方に声をかけて、予定していた講演の動画撮りとディスカッションを行いました。また三つのESD関連事業の報告もブログに上げることで、責任を果たしました。(http://ubekuru.com/blog_view.php?id=5384~5386、5391~5393)。山陽小野田市立図書館山本安彦館長のお話は「多世代の市民を巻き込む企画の工夫」について、非常に活発な取り組みを紹介していただきました。

当初、ESD研修会のまとめと反省会に見合ったテーマかどうか、すこし心配もありましたが、最後はESDの在り方そのものの議論になり、大変有意義な議論ができたと思います。また、山陽小野田市図書館での様々な取組とは、まったくスケールやレベルが違いますが、まちなか環境学習館の運営方法についても大き

れている。現代の我が国労働現場では有害物質を体内に入れるのは中心となる作業でなく、準備や片付け、休憩時間であることが多い。他人との距離をとるだけでなく、身近なものに触ってウイルスが体内に入ることもあるだろう。室内環境という点で普段の会話でも唾液の粒子が近くに飛び散る様子が最近報告された。人と人が近づく頻度自体を減らそうというのが、現在行われている社会的対策である。

中国や韓国の流行状況から、我が国も数か月で感染者の増加は落ち着いてくるかもしれない。一方で中国などでは、第二波の流行が起こるかもしれない。国民の努力が奏功して流行が縮小したとしても、現在強いられている活動をいつまで続ければよいのかははっきりしない。ただこれから、情報通信機器を利用したテレビ会議、テレワークは普及するだろうし、キャッシュレス化も進むかもしれない。働き方が変わりそうである。大気環境汚染の改善はいつまで続くのか、あるいは経済活動を再開して遅れを取り戻すために悪化するのか注視しないとイケない。ペストの流行が社会を変えたように、歴史の転換にいるのは確かだろう。



なヒントや刺激を受けることができました。まちなか環境学習館には、環境関係の図書が900冊以上あり、昨年度、図書館から人生の生き方に関する本も160冊程度預かり、まちなかブックコーナーも設けられましたが、残念ながら受験勉強部屋提供の域を出ていません。今年度はなんとか打開を図りたいと思っています。

うべ環境コミュニティ理事長 浮田正夫



宇部市環境学習ポータルサイト
「うべっくる」

うべっくる

検索

http://www.ubekuru.com

まちなかおそうじ隊&出張おそうじ隊

学習館では、毎月最終日曜日に学習館周辺やアーケード、周辺道路などを掃除する「まちなかおそうじ隊」と、不定期に河川敷などの掃除を行う「出張おそうじ隊」を実施しています。新型コロナウイルスの影響でしばらく中止となっていますが、今後実施の際にはぜひご参加ください。

「宇部市林業研究会」

平成16年の宇部市と楠町の合併を機に、それまで旧市・町のそれぞれにあった林業研究会が合併して設立されました。60代から80代の山林所有者等が会員となり、森林整備やシイタケ生産など、林業に関する知識と技術の研鑽を目的とし、研修会や情報交換などを行っています。

【林業技術の研鑽】

会では「里山を活かそう」を合言葉に、人間よりも長生きな木を元気に育て、次世代によりよい山を残すべく活動しています。先進地の視察や、優れた技術の情報を会員と共有し、林業技術の普及を図っています。最近では、国が取り組む低コスト造林の技術について学ぶため、山口県農林総合技術センターから講師を招き、スギ・ヒノキよりも成長の早い樹木の種類や育林方法について学んだり、実際に苗木を植えたりする研修を行いました。

【子供たちに森林のことを伝える活動】

子供たちに森林の役割やすばらしさを伝える活動にも積極的に取り組んでいます。

毎年春に、市内の子供たちを会員の山に招待し、タケノコ掘り体験を行っています。クワを担いで竹林に入り、会員にコツを教してもらいながらタケノコを掘ったり、お昼

ごはんにはたけのご飯を試食したりと、子供たちや保護者に大好評なイベントです。また、市内の小中学校で森林整備体験や地域の木材を使った木工体験などを行う「森林体験学習」も主催し、子どもたちに山の恵みを体感してもらえる貴重で楽しいイベントとなっています。



育林についての研修会



森林体験学習（二俣瀬小学校）

このほかにも、地域イベントでの木工体験指導や高校生へのインターシップの受け入れなども行っています。森林作業体験を通じて、森林の大切さや木材の良さについて理解を深めてもらうとともに、都市部の住民の方にも森林を身近に感じ、森林・林業分野への関心が少しでも高まっていけばと思っています。

宇部市林業研究会会員 田辺厚美

うべ環境コミュニティー会員



コラム

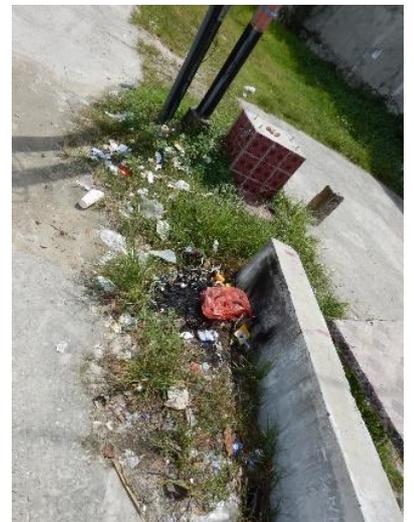
ごみのポイ捨てについて



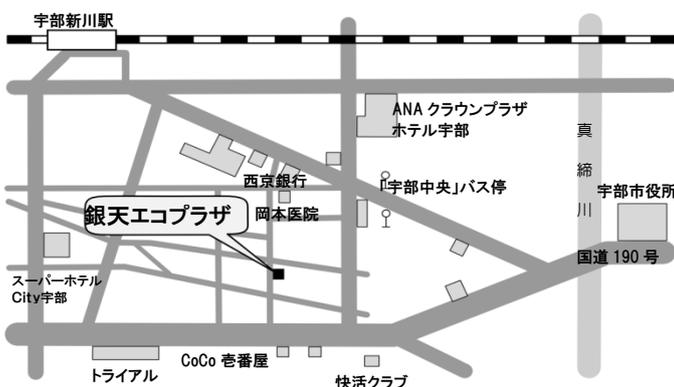
昨年4月～9月の半年間、インドネシアのリアウ州プカンバル市に滞在する機会がありました。プカンバル市に到着してまず驚いたのは、道端に捨てられたごみの多さです。日本で時々ある不法投棄が街のいたるところにある、という印象でした。滞在中に観察していると、ごく普通の人たちが人目もはばからずお菓子の包みや紙くずを道に捨てていました。リアウ大学の構内も、街中と同様いたるところにごみが散乱している状態でした。文句を言っただけでも仕方ないと思いきや、ごみ拾いをしていると、学生達が手伝いましょうか、と声を掛けてきました。それではお願いしますと言ったところ、彼達は、何を拾うべきかわからないので教えてくださいと言うのです。どうもごみ拾いの経験がまったく無いようでした。大学に通っている人達が裕福なのかもしれませんが、ごみ拾いはそれを職業とする人達がするもので、自分たちがごみ拾いをしてしまうと、その人達の仕事を奪ってしまう、という考えもあるようです。手伝ってくれると言ったのも、自分達も一緒にごみをきれいにしようというより、自分より年長の人にそのようなこ

とをさせては申し訳ない、といった気持ちからのようでした。

別の機会に幼稚園を見学する機会があったのですが、日本では当たり前のお片付けする機会は無く、掃除のために雇われた人が掃除や片付けをすることでした。小学校でも児童が自分達の教室を掃除する、ということは無いようでした。子供の時に身についたことが大人になってからの行動につながるとは思っていましたが、これほどまでに子供の時から習慣が重要なのか、ということを感じました。幼少期からの環境教育の重要性を、あらためて感じた次第です。



うべ環境コミュニティー会員 山本裕子



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し（近隣の有料駐車場等をご利用ください）

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～21時 HPアドレス ; <http://ubekuru.com/>

休館日 毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月3日）